



暦の上では大寒が過ぎ暖かくなると言いますが、2月はまださむいですよね。体調管理には十分注意してください。

2月と言えば節分ですが、豆まきはしますか？最近では恵方巻きに押され気味だと思いませんか？

と言う事で、今回は豆まきについての、お話をご紹介します。



節分は年に4回あります



「節分」とは、四季を分けるという意味で、各季節の始まりの日「立春・立夏・立秋・立冬」の前日のことで一年に4度あります。

旧暦の頃は、立春に正月の行事が行われていたので、一年が始まる前日、現在の大みそかに相当する日として重視されたことから、立春前日が「節分」として定着したようです。

鬼の色には意味があります



鬼のしましまふんどしは「鬼門」に関係があります。鬼の出入りする鬼門は北東にあたり、十二支にあてはめると「丑（うし）」と「寅（とら）」の方角になります。そのため、鬼には牛の角があり、虎のしましま模様のふんどし姿なのだそうです。

三条市の本成寺の節分鬼踊りの



赤鬼・・・人間のすべての悪い心

青鬼・・・貧相で欲深い心

黒鬼・・・疑いの心

黄鬼・・・愚痴や甘えの心

緑鬼・・・おごりたかぶりの心



を意味するといわれています。

「鬼も内」の掛け声もあります



豆をまくとき、「鬼は外、福は内」が定番の掛け声ですが、寺社や地域によっては「福は内、鬼も内」と言うことがあります。鬼を祀っている寺社や、鬼の字が姓や地名につく地域では、「鬼も内」と言うことも多いそうです。「福は内」のみの寺社もあります。観音さまや如来さまの前には、鬼はいないとされるためです。東京都内最古の寺院、浅草寺は御本尊が観音さまなので「千秋万歳（せんしゅうばんぜい）福は内」と発声します。





なぜ豆をまくのか



季節の変わり目には鬼（邪気）が入りやすいと言われます。宮中では新しい年を迎える前に、鬼（厄）をはらう「追儺（ついな）式」が執り行われており、その宮中行事の「豆を打って、悪鬼邪気をはらう」が長い年月を経て、一般にも豆まきとして広く伝わったと言われています。

またその昔、京都の鞍馬山に住む鬼が人々を苦しめていたところに、七福神の毘沙門天が現れ、炒り大豆を鬼の目に投げるように言い残し、目に投げつけたところ、鬼を退治できたと言うお話があります。鬼の魔の目（魔目「**まめ**」）に豆を投げると魔を滅する（魔滅「**まめ**」）ことができると考えられていたのです。

鬼に豆を投げて厄をはらい、福を呼び込み、数え年の豆を食べて、無病息災を願う意味が込められているのです。



鬼より強いワタナベさん

鬼（厄）をはらい、無病息災を願う豆まきですが、ワタナベさんには鬼が敬遠して近寄らないため、豆まきをしなくてもよいそうなのです。平安時代の武将だった「**渡辺綱**」は酒吞童子（鬼の頭領）退治や、一条炭橋で鬼の腕を切り落としたお話があります。この話が鬼の間で広まり、渡辺綱の血族を恐れてワタナベ姓に近づかなくなったので、豆まきをしなくてもよいと言われています。



大豆or落花生 ～そしてお菓子やみかんも～

豆まきには炒り大豆を使います。生の豆をまくと、拾い忘れたものから芽が出てしまう可能性があり、縁起が悪いとされているからです。「炒る」が「射る」にも通じ、「魔を射る」となるわけです。

ここまでの、お話はすべて大豆です。全国的には炒り大豆をまきます。新潟県民の皆さんは、炒り大豆はもちろん、**落花生**・小さいお子さんがいる方は、**お菓子**や**みかん**もまきませんか？北海道・東北・**新潟**・長野では、落花生を使う割合が高いそうです。いつ頃から落花生を使い始めたかは、はっきりしませんが、北海道で落花生の生産が拡大した、昭和30～40年代に替わってきたとも言われます。雪の多い地方に広まったのは、「**雪の中にまいた豆を拾いやすい**」「**掃除が楽**」「**殻つきなので衛生的**」等、合理的な理由が伴っているからだそうです。



豆まきをして
厄をはらおう



【参考】養命酒製造株式会社：豆まきで健康祈願！節分に秘められた謎を解く！

マイナビニュース：ワタナベさんは豆まき不用！？話したくなる節分トリビア4つ

一般財団法人全国落花生協会：お役立ち情報

